

【科研費応募支援ニュースレターNo.31】 発信日 241219
タイトル_パラグラフィティング

教育職員各位

URA 高木敦子

いつもお世話になり、感謝申し上げます。URAの高木敦子です。
今回のタイトルの「パラグラフィティング」を授業等で体系的に習ったことはありません。この言葉を初めて聞いたのは、石原 尚先生のサイト（資料 1）を見た、1年くらい前のことです。大学院のときの教授が、「論文をかくときに、1パラグラフを1文でつくってはいけない」と言われていたことだけは、記憶に残っています。
本学では、工学部の学生対象で日本語の書き方の授業が行われているかと思しますので、そこでは、取り上げられているかもしれません。しかし、大体の先生方にも、このような授業を学生時代に受けたというご経験はないのではないのでしょうか。授業等では受けておられなくても、もうすでに、「パラグラフィティング」を実践されている先生方も多いかもしれませんが、今回は、このテーマでニュースレターを書かせていただきます。

アメリカでは、小学校から大学院まで一貫して、アカデミックライティングを学び、特に高校からはパラグラフィティングの専門用語（トピックセンテンス、サポートセンテンス等）を使ったアカデミックライティングがはじまるそうです。大学1年のときに「フレッシュマンライティング」という授業があり、この単位をとれなければ、専攻をきめたり進級ができないとのこと。また、専門科目の授業でも、パラグラフィティングができていなければ、レポートなども読んでもらえないとのこと（資料 2）。

「パラグラフィティング」とは、文章を構成する最小の単位である「パラグラフ」を書く技術のことです。難解な内容を分かりやすく説明するために必須の記述法です。「パラグラフィティング」は、文章のまとまりを作るルールと、各まとまりの中での文の配置のルールに則って文を書く方法です。文レベルで正しい文を書くことも大切ですが、それだけでは文章の質は向上しません。「パラグラフ」は、日本語では「段落」と訳されることもありますが、「段落」よりももっと詳しいルールがあります。

「パラグラフィティング」の大原則を簡単に述べます。詳細は資料 1 から 3 をご覧ください。「パラグラフ」は、ある主題について書かれたいくつかの文のまとまりです。その中で一番主張したいことがトピックセンテンスとなります。1つのパラグラフは1つの主張のみ説明します。そして説明しきります（oneTopic, one paragraph ルール）（大原則 1）。つまり、共通の話題で括れる内容は一つのまとまりとします。

パラグラフのトピックセンテンスは、パラグラフのはじめに書きます（大原則 2）。次に、このトピックセンテンスをサポートする内容を書き、最後にコンクルーディングセンテンスをかきます。トピックセンテンス、サポートセンテンス、コンクルーディングセンテンス（なくてもよい）がパラグラフの要素です。

「パラグラフィティング」のその他の注意すべきことは、次の通りです。

- ・パラグラフの途中で原則、改行しない。
- ・小さすぎる（1、2文）パラグラフを作らない。4から8文を目安とする。パラグラフに図表が入ると文の数は少なくなることもある。
- ・大きすぎるパラグラフを作らない。このときは、無駄な情報が入っていないか、あるいは内容のまとまりを意識して、分割を考える。
- ・サポートセンテンスの内容はなるべく具体的に書く。
- ・キーワードは可能なかぎり、文頭に置く。

「パラグラフィティング」の大原則に即したパラグラフが複数個でき、それを適切につないでいくこととなります。その時に注意すべきことは、次の通りです。

- ・総論のパラグラフが最初にあると、非常によい。
- ・既知から未知への流れにする。こうすると、読み手が読んでいく端から理解できる。
- ・メンタルモデルを意識する。メンタルモデルとは読み手が頭の中でつくる自分なりの理解の世界である。つまり、読み手がつぎには、こういう内容が続くのだろうと考えることを書く。
- ・各パラグラフの関係は縦か横になる。接続関係は言葉ではっきり伝えるのがよい。
- ・横関係にあるパラグラフは、表現の仕方等を揃える。
- ・「パラグラフ」と「パラグラフ」の間は1行あけるか、書き出しを1文字下げる。あるいは両方をする。

次に、「パラグラフィティング」を行うことのメリットを述べます。

読み手のメリット

- ・「パラグラフ」のトピックセンテンスを読んでいくだけで、内容がおおよそ理解できる。
- ・ロジックを正確に理解できる。
- ・速読できる。
- ・読み進めるべきかの判断がしやすい。

書き手のメリット

- ・情報のバランスをとって書ける。
- ・より論理的にまとめられる。論理の飛躍を防げる。
- ・情報の洩れに気づきやすい。
- ・楽に文章を作成できる。早く書ける。

「パラグラフライティング」を科研費申請書作成においても意識していくことは重要です。科研費申請書作成も楽になり、また、わかりやすい申請書作成に有効と思います。「何も知らずに読む読み手と、すべてを知っている書き手では、わかりやすいという感覚がずれる。」という文章が資料3にありました。「パラグラフライティング」を用いることで、このずれも解消できるのではないかと私には思えます。

「学振申請書を磨き上げる11のポイント」のサイト(資料4)においても、ポイント3に「パラグラフライティングを徹底する」とあります。このサイトは大変有用ですので、一度覗いてみていただければと思います。

「パラグラフライティング」は授業で体系立てて習ってはいませんが、ちゃんとできていると思われる先生方も、もし、お時間がありましたら、成書を1冊は、読んでみられることをお勧めいたします。

以上、「パラグラフライティング」を意識して、このニュースレターを書いたつもりですが、読みにくい場合には、申し訳ありません。修行します。

本学 web サイト【研究・社会連携】科学研究費助成事業】ページ内に、科研費の応募支援や研究支援に関する情報が掲載されています。

https://www.osaka-sandai.ac.jp/research/grantinaid_scientific_research.html
【ID: kenkyu パスワード : sanken3001】

これからも、科研費申請や研究に関し、情報共有のためメール発信させていただき、なにか少しでも先生方のお役に立てればと願っております。ご不明点、ご意見、ご希望などございましたら、メールで URA 高木敦子 (satakagi@cnt.osaka-sandai.ac.jp) まで、お伝えください。
失礼いたします。

資料1

大阪大学 石原 尚 「パラグラフライティングの作法 -書き手にもメリットのある文配置ルール-」 <http://www.ams.eng.osaka-u.ac.jp/user/ishihara/?p=566>
石原先生のサイトには研究者にとって大変有用な情報が書かれています。

資料2

『理系のパラグラフライティング～レポートから英語論文まで論理的な文章作成の必須技術』高橋 良子 (著), 野田 直紀 (著), E. H. Jego (著) 羊土社 2024/3/19
練習問題もついています。本学総合図書館で所蔵しています。

資料3

『論理が伝わる 世界標準の「書く技術」 (ブルーバックス 1793)』倉島 保美 (著)
講談社 2012/11/21

本学総合図書館で所蔵しています。

資料 4

「学振申請書を磨き上げる 11 のポイント」 (文章編・前編)

日本最大の化学ポータルサイト cosine 氏

<https://www.chem-station.com/blog/2013/05/-2013-1.html>

(文章編・後編)

<https://www.chem-station.com/blog/2013/05/post-522.html>

「パラグラフィティング」がでてくるのは、前編ですが、このサイトは科研費申請書作成にとっても有用ですので、後編も記載しました。